

## 池上清子博士からの評価コメント

評価者：池上 清子博士（国連人口基金（UNFPA）東京事務所長）

方法：面談方式（参加者：内海グローバル協力センター長、桑名客員研究員）

内海グローバル協力センター長より、事業計画、活動内容について説明。池上氏には、主に大学が国際貢献に配慮すべき点を中心に本事業に関する意見を求めた。以下、池上氏からのコメント。

・国際協力における大学の意義を評価する指標と本事業の成果

- ① 海外 開発の全体の枠組み（ミレニアム開発目標（MDGs）等）と合致しているか？  
⇒本事業は、MDGs に掲げられている女子教育の推進に合致している。
- ② 国内
  - \* 学生へのエンパワメントの度合い  
⇒本事業は、五女子大を中心とする学生の事業への参加の度合いが高い。
  - \* 一般市民に対する働きかけの度合い  
⇒本事業は、UNFPA 共催シンポジウム、アフガニスタンからの留学生が参加したシンポジウム、コンサート等のイベントを通じた市民への働きかけが多い。

・国連と大学の協力関係について

現場では様々な協力関係がありうる。国内では、イベントを通じたアウトリーチ、インターン参加等がある。国連と大学が協力することによって、学生や市民の関心がより高まるという効果がある。本事業において UNFPA と共催で行った「お母さんと子どものために～私たちができること～」シンポジウムでは、650 名を超える学生市民の参加があり、国際協力に対する意識の啓発において大きなインパクトがあった。インターンの参加については、語学力があり、ある程度の専門知識と問題意識を持った大学院生レベルの学生であると、より得るものが多いだろう。

・大学と国際協力実務のコラボレーション

大学には実務者が多様な立場から関われる学びや研究の場を作ることを見込んでほしい。大学も、現場と直結した研究が可能となり、双方にメリットがあると考えられる。